

東 風

第十号

平成11年（1999）9月



南部広域行政組合
島尻教育研究所

III

次

- 沖縄の御嶽（ウタキ）と集落 所長 比 嘉 恒 雄…………… 1

- これからの教育に対応する教師 島尻地区小学校校長会 会長
島尻教育研究所運営委員 大 城 邦 光…………… 3

- 修了者及び次期入所予定者、指導講師一覧…………… 4

- 研修を終えて 島尻教育研究所 教育研究員…………… 5

- 島尻教育研究所図書室の紹介……………12



沖縄の御嶽（ウタキ）と集落

島尻教育研究所所長 比 嘉 恒 雄

私は、沖縄各地の集落の立地や、その景観美に興味・関心を持っている一人である。特に、本教育研究所の南側の八重瀬岳や、糸数城跡の前に広がる島尻丘陵（沖縄本島南部で、知念や糸満台地などの台地を除く、南風原、東風平を中心に、豊見城と大里の一带）の集落景観は、規模も大きく、変化に富み、実に味わい深い景観である。

この島尻丘陵の南側の八重瀬岳と、北側の識名、首里の台地、東側の佐敷、大里、玉城の台地の間に広がる大小さまざまな形の小高い森を扇の要として、末広りの形で集落が立地していることが大きな特徴をなしている。全体が南向きに傾斜していることも、この丘陵のもう一つの特徴である。

そこで、本稿では小高い森と、人々との生活との関係を沖縄の民俗地理学者の仲松弥秀氏の説を基にして取り上げてみたいと思う。

沖縄の集落は北を背にして、南向きの傾斜地が多いのが特徴である。その集落の背後の小高い丘の上に御嶽という聖城がある。しかし、現在の集落の多くは、移動したり、複数の集落が合併したりしたので、多くの集落は平野に存在するようになった。

古い時代の集落の多くは、高地にあり、集落の数だけ御嶽があったようである。このように集落の変遷の歴史を通して、見落していけないことは、集落と御嶽が深い関係をなしていたことである。

御嶽やグスクを調査すると、人骨が埋葬されている例が多いことから、その場所は、村の創建者との関係の深い人々の墓所であると説くのが仲松氏である。その御嶽に一番近い所に宗家（そうけ）があり、その宗家の屋号は、地域によって、多少違うが、その多くは（根屋ニーヤ）、（大屋ウフヤ）、山根（ヤマニー）、（殿内ヌンルンチ）等の事例が各地に多く見られる。

そして、このような屋号は村の中心になる家で、その頭領（トゥリョウ）ことを根人（ニーッチュ）、頭領の姉妹で祭りごとを司祭する女性を根神（ニガミ、あるいはニーガン）といった。

根人が村の行政の中心を司り、姉妹は宗教的な行事をとり行いながら、行政を助ける仕組みになっていたことがうかがわれる。

そこで、御嶽と集落との関係に我々の生活の中に、深く浸透している風水の考えを重ね合わせ、その関連性を見てみたい。

我々の住んでいる自然界には「気」エネルギーが常に流れていて、その「気」が凝集したり、充満や拡散が人間の吉凶や、禍福などに影響を与えるものと、とらえるのが風水の基本的な考え方である。その自然界の「気」を常に保つことができる場所を「龍源」と呼び、龍源こそが最もすぐれた土地で、集落、墓、家をつくるのに最高の場所とされる。

風水の条件である地形や方位の面から集落をとらえると、集落は後が高く、前方が低い、傾斜地がよいとされている。即ち「腰掛けに座っている体が楽になる」このような状態の風水が、最高に良い集落地形だと言われている。

このように、風水にみる「腰掛け状の地形」、御嶽の「腰当て」が好地形として、村落レベルの生活の中に生きていることは、沖縄にもかなり風水知識が普及していた事実をうかがい知ることができる。

又一方、御嶽の神の村人への愛情は、「オソイ」のことばで表現されている。それは「親である神は、自分の子である村落民を常に愛し、これを護り育てている」といったことが「オソイ」という意味である。もう少し具体的な生活場面におきかえてみると、ねている子どもにやさしく着物をかけたり、あるいは、寝冷をしないように、いろいろな工夫をしてあげる母親の心遣いで、慈愛に満ちた数々の行為を「オソイ」という言葉で表現されていると思う。

このように地域に残された伝統文化、祭、年中行事、生活様式等について調べたり、学んだりすることは、児童生徒の人間形成の上で大切なことである。

調べることを通して、児童生徒は、地域のよさ、先人が地域に託した夢、等が理解でき、そこから地域を意識し、新しいパワーが期待できると思う。諸々の体験が基盤となって、自分の地域に誇りを持ち、地域にこだわり関心を抱くことを期待したい。

「生きる力」に恵まれた児童生徒を育むためには、教師としての我々は、伊波普猷の「深く掘れ、^{など}己の胸中の泉、餘所たよとて水や吸まぬごとに」の歌をもう一度深く吟味し、教育研究の礎ず元にしたものである。特に教育改革の激動期のこの時期に「総合的学習」や地域に関する教材開発等の基本に、この歌を据えることで、そこから新しい何かが見えてくるような気がする。

平成11年9月



これからの教育に対応する教師

島尻地区小学校校長会会長

島尻教育研究所運営委員 大 城 邦 光

沖縄の明るいニュースとして、春の選抜高校野球大会で沖縄尚学が県民の夢であった全国制覇を成し遂げ、県民に喜びと感動を与えた。そのことは青少年に自信と誇りを持たせる絶好の機会となり教育的意義も大きいものがあった。

反面、不登校はじめ、いじめ、暴力の問題さらに、子供の私語や教室での立ち歩きで授業が成立しなくなる学級崩壊等の教育課題を学校現場は抱え、その解決のために努力しているのが現状である。

今回の教育改革は、学校週5日制をはじめ21世紀の学校教育を展望し「ゆとり」の中で「生きる力」の育成を重視した改革でもある。さらに、これからの学校教育においては子供一人一人が、自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質・能力を育成することが大切である。

「生きる力」を育成するとは、大きく捉えると知・徳・体の調和のとれた人間の育成であり、具体的には①自分で課題を見つけ、自ら学び、考える力②社会性、創造性、正義感などを持つ豊かな人間性③健康や体力を身につけた児童、生徒の育成である。

各学校において、創意工夫した特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、一人一人のよさや可能性を伸ばし個性を生かす教育の充実を図る等のが大切であると思われる。

21世紀の社会は、情報化・国際化・科学技術の進歩・環境等激しい変化が予想され、これらの変化に主体的に対応する資質・能力としての「生きる力」を学校教育の中で育成していくためには、教師の果たす役割は大変大きいものがある。

教師としての使命感・専門性・人間性等の資質・能力を大切に、教師自ら教育的課題を見つけ、解決していくという意識を持って取り組まなければ児童・生徒の「生きる力」を育成することは厳しいものがある。

基礎的・基本的内容の指導や個性を生かす指導にしても、具体的実践の場は学校教育の中核をなす授業である。その授業を創造的に工夫・改善を図ることが大切である。

教育は人なりと言われ、教師の資質能力は計画的・継続的・日常的な努力によって身につけ光り輝くものである。21世紀の教育を創造し「生きる力」を育てるには教師の意識改革と意欲が最も重要になると考えます。

教師の意識改革の方策として①教育の動向や方針等の共通理解を図る②学校の教育目標や課題を自分のものとして自覚する③教科・道徳・特別活動等の教育活動を意欲的に推進する④校内研修はじめ諸研修を充実させ教師の協働体制を図る等が考えられる。

人間は知らない、分からないでは判断のくだしようがないし、課題解決の糸口も見いだせないものです。学校現場の教育課題を明らかにし、解決の方策が見える研修でありたいものです。教師自身についても教育的課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断して教育活動を展開することにより子供の生きる力が育つと思う。

平成11年9月

平成11年度 前期 教育研究修了者及びテーマ一覧

期	No.	氏 名	勤 務 校	教科・領域	研 究 テ ー マ
前 期	1	與那嶺 靖	大里村立 大里南小学校教諭	道 徳	生きる力を育てる道徳教育 ー 道徳性の育成を図るクロスカリキュラムの単元構成を通して ー
	2	伊 計 徳 善	東風平町立 白川小学校教諭	教育 相 談	子どもの自立を助ける生徒指導体制のあり方 ー 多種多様な事例研究会を通して ー
	3	亀 川 千 明	東風平町立 東風平小学校教諭	算 数 科	多様な考えを生かした学習指導の工夫 ー 練り合いを深める支援の計画を通して（3年わり算）ー
	4	下 門 添 美	糸満市立 糸満南小学校教諭	学 級 経 営	一人ひとりが生き生きと活動する学級経営の工夫 ー 個々のよさを生かした場づくりを通して ー
	5	伊 禮 恵美子	糸満市立 西崎小学校教諭	教育 相 談	「気になる子（多動児）」への支援を図る教育相談 ー 事例検討会を通して ー
	6	宮 城 アケミ	与那原町立 与那原東小学校教諭	総合的な学習	一人ひとりを生かし自ら学ぶ力を育てる問題解決学習の創造 ー 社会科から発展し地域の特色に応じた総合的な学習を通して ー
	7	堀 川 恵	糸満市立 西崎中学校教諭	教育 相 談	学級担任としての教育相談の在り方 ー 不登校の事例を通して ー

平成11年度 指導講師及び担当教科

指導講師	教科・領域	所 属 等	指導講師	教科・領域	所 属 等
大 城 要 則	算 数 科	糸 満 市 立 糸 満 南 小 学 校 立 長	玉 城 美 慧 子	幼稚園教育	佐 敷 町 立 佐 敷 幼 稚 園 教 頭
砂 川 忠 雄	道 徳	豊 見 城 村 立 上 田 小 学 校 立 長	真栄城 功	教育 相 談	佐 敷 町 教 育 委 員 会 指 導 主 事
野 原 盛 栄	教育 相 談	東 風 平 町 立 東 風 平 中 学 校 立 長	伊志嶺 忠 一	算 数 科	東 風 平 町 立 東 風 平 小 学 校 校 長
宜野座 隆	教育 相 談	島 尻 教 育 事 務 所 教 育 相 談 員	上 原 康 一	学 級 経 営	糸 満 市 立 西 崎 中 学 校 教 頭
山 城 直 三	教育 相 談	糸 満 市 立 糸 満 中 学 校 教 頭	神 村 進	教育 相 談	糸 満 市 教 育 委 員 会 指 導 主 事
荷川取 幸 代	学 級 経 営	糸 満 市 教 育 委 員 会 指 導 主 事	玉 寄 幸 子	教育 相 談	具 志 頭 村 教 育 委 員 会 指 導 主 事
城 間 良 昭	社 会 科	大 里 村 立 大 里 南 小 学 校 教 諭		生 活 科	
里 秋 美	幼稚園教育	糸 満 市 立 糸 満 幼 稚 園 教 頭			

平成11年度 後期 入所予定者及びテーマ一覧

期	No.	氏 名	勤 務 校	教科・領域	研 究 テ ー マ
後 期	1	崎 山 千 鶴 子	糸満市立 喜屋武幼稚園	幼稚園教育	豊かな感性を育てるには環境をどのように構成したらよいか ー 身近なひとやもの、自然を通して ー
	2	赤 嶺 優 子	豊見城村立 座安幼稚園	幼稚園教育	読み聞かせを通して育っていくものと育てていくもの
	3	仲 西 栄 進	糸満市立 喜屋武小学校教諭	教育 相 談	積極的な生徒指導のあり方について
	4	渡名喜 信	糸満市立 高嶺小学校教諭	算 数 科	視聴覚機器を利用した授業実践
	5	能 登 美 登 子	糸満市立 西崎小学校教諭	教育 相 談	不登校児の指導のあり方
	6	上 原 弘 充	豊見城村立 豊見城小学校教諭	教育 相 談	登校拒否（不登校）児童の指導 ー カウンセリングマインド ー
	7	金 城 清 美	与那原町立 与那原小学校教諭	生 活 科	一人ひとりの子どもの願いを生かす学習活動の工夫 ー 子供たちが5感を通して気づき、活動を広げることができる支援のあり方 ー
	8	中 村 愛 子	糸満市立 西崎中学校教諭	学 級 経 営	学級内における班、係活動の活発化とリーダーの育成
	9	崎 山 喜 代 子	与那原町立 与那原中学校教諭	教育 相 談	集団生活の中で自他の個性を尊重し、共に学び合う児童生徒を育成するための教師の支援のあり方



大きな山を乗り越えた今

—入所式・研究計画検討会・中間検討会・研究報告書検討会—

大里村立大里南小学校教諭 與那嶺 靖

研究所に入ってくると、たんぽぽや蝶の舞う野原の壁画に「入所おめでとう」と書かれた文字が目に見え込んできました。9期生の温かい心配りが嬉しくて感激するばかりでした。

入所式では、南部広域行政組合教育長島袋朝徳先生より「学校が大きく転換を迎えた時期に教師の力量を高めるための6ヶ月の研修期間を有意義に研鑽に努めて欲しい」また、所長比嘉恒雄先生より「三人行えば必ず我が師ありという研究所の基本方針を基に研究員同志、自己をみつめる、自己をみがく機会を大切に個々の研究以外にも目を向け自己研鑽に励んで欲しい」という期待に身が引きしめる思いがしました。私たち研究員は、忙しい学校現場の中で自己を振り返る時間もなかなかとれない現状です。



自分達のかかえている悩みを1つ1つ解決していきけるようお互いに手を取りあい自己研鑽していきたいと思いました。

入所してから2週間目を迎え、研究所生活にも少しずつ慣れ、自分なりの時間の使いかたを考えるリズムがつかめてきました。

研究所には、研究計画検討会、中間検討会、研究報告書検討会の「三つの大きな山」が控えています。「検討会用レポート」の提出が近づくといつもより机に向かっている時間も長く、昼食時間を取るのも惜しいほど話し声も聞こえなくなりました。

研究計画検討会では、テーマ、テーマ設定理由、仮説についての検討があり、研究員、両主事、所長の的を得た指摘に感心することが多くありました。特に自分のまだ十分に絞りきれていないテーマ、仮説を痛感させられました。もう一度練りなおし、これからの研究がスムーズにいくように方向づけられ研究内容がより具体的に見えてきました。

中間検討会は、研究活動の中でも一番の上り坂といわれています。テーマ、テーマ設定理由、仮説、内容とが整合されているか、課題への切り口、研究の視点の捉え方を考えさせられました。所長講評で「教育を厳しく見つめ、教師の使命感を問い直し、新しい教育の方向性を」という言葉に研究所で学ぶことの意味を再確認させられました。

研究報告書検討会では、中間検討会での指摘箇所を指導講師との助言を受けて修正し10ページにまとめあげました。なれないパソコンを賀数主事の指導を受け一枚一枚仕上げていくことは、大変な作業でした。たくさんの資料の中から整理して10ページにまとめた報告書には、血と汗と涙の結晶が詰まっています。午前2名午後5名のハードなスケジュールの中、一人ひとり指摘を受けました。

このように、三回の検討会を重ねていくと、何がわかり何がわからないか、研究の課題、研究内容を見つめなおすことができました。一つ一つの節目(検討会)には、苦労もありましたが研修も終わろうとしている今では、充実したものとなっています。

比嘉所長をはじめ糸満主事、賀数主事、指導講師の先生方また、このすばらしい研究の機会を与えてくださった南部広域行政組合の局長、教育委員会、関係職員や研究のために6ヶ月間研究所に派遣して下さった所属校の校長先生方には、心より感謝とお礼を申し上げます。私達は、研究所で学んだことを子ども達に還元できるよう努めていきたいと思っています。



味わい深かった古都の旅

～ 県外研修 ～

東風平町立白川小学校教諭 伊 計 徳 善

メリハリのある生活

島尻教育研究所に入る前から最も期待していた研修旅行。退所した元所員から土産話をいっぱい聞かされ、大いに待ちわびた。いろいろな候補地があがったが、「スカイプランとよみ」の宮里さんと相談し、最終的に大阪、奈良、京都を旅行先とした。その地域は日本の古都。そこでわたしたち島尻教育研究所第11期研究生の会も「古都の会」と名づけた。

ところで出発前日の4月19日は、研究テーマ検討会であった。旅行の準備どころでなく、検討会に向けて大忙しだった。頭をひねり知恵を出し、指導主事、指導講師との検討会、助言を受けてのまとめ、発表し更に修正を加える。この苦しい検討会を終えた翌日の旅行だけに、喜びは格別であった。こういうメリハリのある生活は人間を最も幸福な気持ちに導く。賀数主事、研究員7人の旅はこうして始まった。

何度も行きたい日本の古都

いよいよ旅行当日。旅の日は4月20日から23日まで、学校が多忙の日である。主な日程は下記の通り。

4月20日 関西空港でジャンボタクシーにのり、大阪造幣局の桜トンネル、新緑に囲まれた大阪城見学。奈良の地酒で酌み交わす。

21日 古都奈良で若草山、東大寺の大仏、春日大社、興福寺、唐招提寺、法隆寺を見学。京都に移動。京都駅の近くで地酒を酌み交わす。

22日 京都でトロッコ列車のり、保津川下り、嵐山の天竜寺見学。京都の夜、芸能館で日本の伝統芸能「茶道」「琴」「華道」「雅楽」「文楽」「狂言」「舞妓の京舞」を見学。祇園街、鴨川のほとりを散策。先斗町で酒を飲み交わす。

23日 3つに分かれて行動。京都の名所見学。私は東本願寺、清水寺でじっくり諸行無常を味わう。

以上が主な旅の日程で詳細は旅行記にまとめた。旅先の感想であるが、観光地には2つのタイプがあるという。もの珍しいが一度行ったら二度と行くことなく、それでおしまいになるのが一つ。もう一つは、「もう一度行きたい」「1月程滞在したい」と思わせる地である。今回の古都の旅は後者にあたる。何度行っても味わい深い地であり、比嘉所長の言葉を借りれば「お国自慢でなく、人間としてどう生きるかを考えさせる」文化のある日本の古都であった。沖縄もそういう観光地でありたい。

旅のキーワード 仲間、歩く

次に今回の旅のキーワードを紹介したい。第一が仲間。この旅行の最大の収穫を象徴する言葉である。寝食を共にし、旅先で様々なことを語り合い、人間的な絆を深くした。個性の違いや良さも感じた。学校ではともすればすれ違うこともあり、私的な面を全然知らずに1年間が過ぎることがある。わずか4日間で深い絆に結ばれた。

第二のキーワードは歩く。奈良では宿泊地から唐招提寺まで鑑真和尚に想いをこめつつ、2時間歩いた。初めの頃は、通りの花の美しさに気を留めたり鼻歌さえ聞こえる程であったが、寺に着く頃には無言となった。先斗町から地下鉄乗り場に行くときにもよく歩いた。古都の会では、歩いたことに話題が及ぶことが多く、それほど歩いた旅だった。

個性豊かな人物シンフォニー

最後に、旅先での人間模様を紹介しよう。

◇引率者として、地酒のおいしい場所を見つけ、案内役、相談役となってくれた頼りの賀数主事

◇黒めがねでたくましい用心棒、はずして笑顔はやさしいお兄さん、貴重なビデオ撮影の靖さん

◇「山奥」のいなかの若草のような乙女の明るさで、楽しい雰囲気を作ってくれた千明さん

◇いつも笑顔で心優しく、いつまでも語りこんでしまう聞き上手の添美さん

◇右往左往せず、状況判断とてきばきな動きでぐいぐい引っ張ってくれた恵美子さん

◇話が熱を帯びたとき、わさびの効いたつつこみ、つぶやきを入れ笑いを作り出す漫才人の恵さん

◇よくしゃべりよく笑い、いつでもどこでも寝れる絵描きの歴史家アケミさん

◇そして私、カメラマンとして美しい女性（所員！）と寺を撮り諸行無常を感じた伊計。以上。

人との出会いで学んだこと

～ 島尻教育研究所での一日 ～



東風平町立東風平小学校教諭 亀川 千 明

いつもの通勤路とは違う道の風景をくぐり抜けながら島尻教育研究所の入り口に、不安と緊張感あふれる思いでたたずんだあの4月を今、思い出します。教師としての自分を少しでも高めようと誓った決意を胸に秘めて過ごした6ヶ月間は、Study から learn としての貴重で充実した研修の日々でした。

沖縄の伝統芸能三線の朝練

「練習は不可能を可能にする」を合い言葉に、毎朝わずかな時間を利用して糸満主事の指導の基に課題曲「なり山あやぐ・安波節」を懸命に練習してきました。時には、小鳥のさえずりに合わせながらも不慣れな三線で一つの曲を最後まで弾けたときの感動は、最高でした。

心の中をも掃き清める朝の清掃

研究所生活の一日は研究室と駐車場の清掃から始まります。特に駐車場の清掃は、4、5月の頃はさわやかな風とともにすがすがしくやりました。6、7月の頃になると、あつい日差しをさけて木陰のもとでほうき片手に指導主事や研究員と語り合いながら楽しく清掃をしました。研究所の一日の中で、自然を感じ、汗を流す喜びを感じ、落ち葉の美しさを感じることでできる大切な時間でした。



朝のミーティングと情報交換

月、水、金曜日は日程の確認、諸連絡だけにとどまらず、所長や両主事・上原先生のお話は、学校現場では直接聞くことのできない内容だけに、貴重な機会でした。特に比嘉所長の「琉球の歴史」の講話は、沖縄の子供を教育する教師が沖縄の歴史をきちんと知ることの重要性を丁寧に教えていただきました。糸満・賀数主事には、これからの教育や政治、経済、時には家族のあり方まで幅広いジャンルのお話を通して、これまでのものの見方・考え方をふり返り、人との出会いで学ぶことの大切さを教えて下さいました。上原先生には、悩みを抱える子供達を温かく見守り思いやりのある指導のあり方の大事さを学ばせてもらいました。ミーティング終了後には、いろいろな歌をさわやかに歌い、特に逍遙歌はその時々の研究員の心を励ましてくれました。

火、木曜日の朝は、美味しいコーヒーを飲みながらざっくばらんにお互いの情報を交換し合い、和やかな雰囲気ゆったりと過ごせる日でした。

話し方を学ぶ「大切な話」と「三分間スピーチ」

水曜日の「大切な話」と金曜日の「三分間スピーチ」は、要点を押さえながら自分の考えを、限られた時間の中で話すという教師としての資質を磨く場でした。その人の人柄が溢れるそれぞれの話題の中には、お互いのよさを知り自分を見つめ直すものばかりでした。特に所長・両主事は、ものの見方・考え方をいつも広い視野からとらえたお話で説得力があり、人として教師として或いは、親として示唆を与えて下さる内容でした。

日々自己研修

研究所で過ごした半年間は、比嘉所長をはじめ、糸満主事・賀数主事・担当の指導講師の先生方に、各自の学校現場での課題をどう見つめ、どのように解決するかという研究の視点のつかみ方をご指導していただきました。また、それだけにとどまらず、人として教師として自己変容をするために、温かく、時には厳しく励まし見守りながらご指導して下さいました。所内・所外研修で出会った講師の先生方や施設見学をする中で、幅広い知識を得ることができ、現場では体験できないことを日々研修することができました。これまで、私たち研究員の研修を支えて下さった、南部広域行政組合の皆様、快く研修に送りだして下さいました各学校の校長先生と諸先生方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



多くの人々との出会い

— 所外研修から学んだこと —

糸満市立糸満南小学校教諭 下 門 添 美

諸先生方の見守る中、緊張しながら望んだ入所式から早6ヶ月が過ぎ、研究生活も終わりに近づいてきました。6名の研究員と共に期待に胸を膨らませての入所式でしたが、自分にできるだろうかという不安の方が大きかったのを覚えています。研究所では、各自のテーマの研究はもとより所内研修や講話、所外研修、クラブ活動（三線）、県外研修、七夕競書など短い期間ではありましたが、いろいろなことを体験させて頂き有意義に過ごすことができました。その中から、所外研修で学んだことを簡単に紹介します。

CCC本社

コンピュータについて初歩からわかりやすく説明して下さい、初心者の方にも安心して取り組むことができました。インターネットの操作やハイパーキューブを使ってのお絵かきなど夢中になり時間の経つのも忘れるほどでした。

那覇国際高校

玄関を入ると同時に、学校とは思えないような素晴らしい施設に目を見張りました。同時通訳の設備が整った会議室、コンピュータを使っての運営、そのような中で学べる生徒は幸せだなと感じました。

沖縄県警察本部

コンピュータで事件発生場所やパトカーの位置がわかり迅速に事件が解決できるようになっていました。交通状況も目の前の掲示板に映し出されるので、すぐにわかり便利だなと思いました。

若夏学院

18歳未満の児童を預る福祉施設で、基本的生活習慣の確立をめざすため児童と寝食をともにして熱心にご指導をなさっている先生方の姿に感動しました。

中央児童相談所

近年、親による児童虐待が多くなっているという実態を聞き、心が痛くなりました。多くの子どもたちを守るために手を差し伸べて下さっている児童相談所学校との連携を図ることの重要性を感じました。

沖縄少年院

14歳以上20歳未満の少年たちの矯正教育施設で、教科指導のほか職業訓練も行われていました。暑い中、農作業や草刈り作業、トラクターの運転練習を頑張っていた少年たち。陶器を作りながら「こんにちは」と挨拶してくれた少年の瞳が印象に残っています。

沖縄女子学園

花いっぱい心が和むような環境の中で、子どもたちの更生に向け学習指導や生活指導を頑張っている先生方には、頭の下がる思いでした。子どもたちの作った紅型はとても素晴らしかったです。

沖縄マルチメディアセンター

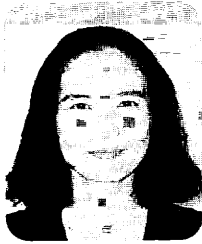
インターネットの世界でのネットミーティングやチャットの世界の体験、3Dシアターやコンピュータグラフィックスの映写会は楽しくて夢中になり時間を忘れてしまう程でした。

歌碑めぐり

美空ひばりの歌碑をはじめ6カ所を回りました。垣花武信先生のユーモアを交えての解説や歌をうたったりなどとても楽しく、また中・北部の歌碑も回る機会があるといいなと思いました。

その他、パソコン研修のため長嶺小学校と大里南小学校にはコンピュータ教室を貸して頂きました。

このように、いろいろな所に行き、学校現場ではなかなか体験できない多くのことを学ぶことができました。この6ヶ月間で学んだ事をこれからの教育実践に生かしたいと思います。最後になりましたが、いつもそばで指導助言をして下さいました比嘉恒雄所長、糸満且男主任指導主事、賀数昌治指導主事、指導講師の荷川取幸代先生、また貴重な研修の機会を与えて下さいました関係者の方々に心から感謝申し上げます。



すてきな出会いと語り

— 指導講師の講話より —

糸満市立西崎小学校教諭 伊禮 恵美子

研究所の行事の一つである指導講師講話や県内知識人の講話等を数多く拝聴でき、充実した研修を終えることができました。簡単にご紹介します。

4月30日(金) 荷川取幸代先生 「学級経営」

これまでの実践例を紹介しながら詳しく「学級開き」「児童のしつけ」「保護者会の持ち方」等お話ししてくださいました。またご自分で作られた教具等も見せていただき感激しました。話のなかの「最初の出会いを大切に!」の言葉に共感しました。

5月6日(木) 大城要則先生 「教育全般」

ご自分のこれまでの教職経験を振り返りながら、経済力は低いが発展途上国と経済力はあるが心の廃退がみられる先進諸国の教育を比較しながら私達の考えていた教育の現状、課題、教師の姿勢等について今日本の教育に欠けているものは何かと問題提起をされたお話でした。

5月17日(月) 山城直三先生 「生徒指導」—不登校児童生徒への対応について—

「口をきかない、心を開かない児童生徒でも何気ないことで心を開くことがある。不登校の子どもと共に頑張っていく気持ちを持ちつづけていけば必ずその子の心に明るい光が当たっていくと信じている。」という言葉が印象的でした。

5月25日(火) 野原盛栄先生 —一人ひとりの児童、生徒に即した個別指導の充実を図る—

生徒指導とは、子どもに自己存在感を与え、共感的関係を築き、自己決定の場を与えることによってよさや可能性を伸ばし「自己教育力」を育成することである。また子どものよさや可能性を見つけ、伸ばし、生かしてあげることが教育の原点であり、教師の努めであるということが確認させられました。

6月15日(火) 儀間朝廣先生 —いつかきた道—

戦後の教育現場での苦労、工夫などや行政に携わっての体験談等私達にとって未知の世界を紹介してくださると共に学校経営の基本は、人的環境づくり、物的環境づくりにあることを具体的に述べられていました。

7月9日(金) 浦崎榮徳学振課長 「謝花昇の生涯」

謝花昇の生涯についての研究姿勢や人物像の追及の仕方に深い感銘を受けました。中でも東大の図書館まで出かけ、卒業論文をみつけた話には執念を感じました。また地域素材の積極的教材化として、地域人材活用を生かした東風平中の選択教科としての「組踊」の取り組み等、現場への総合的学習への広がりを示した熱のこもったお話でした。

7月13日(火) 比嘉清忠先生

大里南小の学校像、教師像、経営理念等を織り交ぜながら、広く学校教育と生涯教育との関連について話されました。歴任校の思い出など教育に対する信念、離島で作った短歌の紹介もしてくださいました。

一句紹介 「空高く、色とりどりの手だこ舞い、寒風の中、子らは走る」

7月26日(月) 砂川忠雄先生 「生きる力」の育成

昔の「生きる力」は食から育まれてきた。生きることに死に物狂いだった。しかし現在は飽食の時代、何でも与えられ、恵まれすぎている。「生きる力」をいかにつけていくか課題だ。これからの教育には信頼関係の構築、対話が必要であり、やる気を出し、自ら進んで学び、知識と生活が結びつき、生きて働く知恵になるような子どもの育成が求められているとまとめておられました。

最後に研究所で過ごした6ヶ月間を振り返り、儀間先生の講話より「教育は人である。どんなに教育施設が整っていても教育予算が潤沢でも子ども達に直接関わり、日々その指導に当たる教師が優れていなければ、子どもは善くはならない。そして『温かい心』と『若さ』を持って『生きる』時の変化の中で生きていく子ども達を育てたい。」という言葉がこれからの心の糧として現場での教育実践に生かしていこうと思います。すばらしい講話をありがとうございました。これからもご指導をよろしくお願いします。



生き生きと輝いていた仲間たち

— 検証授業を通して —

与那原町立与那原東小学校教諭 宮 城 アケミ

「なぜ」にこだわって

これまで体験学習・問題解決学習を取り入れた楽しい授業・わかる授業をめざし、子ども達のやる気を育てる指導法を模索してきたつもりでいた。したがって、研究所では関連のある文献をじっくり読み、これまでやって来たことをこの機会にまとめてみようという気安さが私の心の片隅にあった。

ところが、その考えが甘いことに気づいた。それは、4月1日の所長講話でいきなり投げかけられた「どんな子どもを育てたいのか」という問題提起にあった。「沖縄にこだわってくれるような子どもを育てることが私達の使命ではないだろうか」「もっと沖縄らしい実践をやってもいいのではないだろうか」というお話に、私は心から共感した。それは、私には、「足元からグローバルに、沖縄の文化・歴史を世界に誇れる心意気のある子ども達を育てるための、小さな教材開発をあらゆる分野でやろう。」という呼びかけに受け取れたのである。さらに、比嘉所長は「研究テーマは、見つめるべきものが見つめられていなかったと思う点・やるべきものがやられていなかったと思う点を大切に設定し、それを理論研究で深め検証授業でクリアしてほしい。」ともおっしゃった。私の気安さは、そこで一瞬にして消えた。経験主義に陥っていたという反省・指導法や授業が先行していたのではないかという反省・研究所は「なぜ」それを研究するのかという「なぜ」にこだわるためにあるということに気づけなかった未熟さ等、赤面せざるをえなかった。もう一度、テーマを見直し、「総合的な学習」を通して教材開発を試みて自分らしい授業実践をしてみようと、大変さを覚悟しながら決心していた。

研修には厳しく研究員には思いやり

暖かい人間関係とすばらしい研修メニューが繰り広げられ研究所にきた喜びをかみしめている4月・5月が過ぎ、検証授業や事例研究会が待つ6月がやってきた。指導案検討会では比嘉所長をはじめとして糸満主事や賀数主事の指導や研究員全員の協力で①研究テーマに迫るための工夫はどこにあるか。②仮説を検証するための授業になっているかが分析された。そのとき、私達研究員は「一人ひとりのテーマや思いを大事にする。」研究所の在り方に感激した。より良い指導案づくりに向けて厳しい指摘があったりしたが、研修には厳しく研究員の行動には思いやりと配慮を持って接して下さった両主事のおかげで苦しい坂を乗り越えることができた。

一番輝いている時

前期の研究の困難さは、学級の児童のことをよく把握する時間がないままに、あるいは、学習規律などを鍛える機会が十分ないままに検証授業に臨むことである。にもかかわらず、「算数」の練り合いを深める授業をした千明さん、「道徳」を核にして環境教育の授業をした靖さん、個の良さを生かした場作りとして「社会科」の授業をした添美さん、みんな子ども達に慕われ堂々と授業をしていて感心した。研究所で見せる柔らかく穏やかな顔と違い、はち切れるように明るく生き生きとした顔の3人だった。やはり教師は子どもと共にあるのが一番輝いていると思った。私も、与那原湾を教材化した「総合的な学習」の授業をしたが、子ども達をもっと活躍させてあげたかったと反省した。でも、無事終わることができ、指導講師の城間先生や学校や関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいであった。また、検証授業の他に伊計さん、伊禮さん、堀川さんの3人が生徒指導や教育相談の事例研究会をそれぞれの学校で開きその成果を報告してくれ私は、教師間の共通理解の大事さを学んだ。

研究所の「逍遙歌」にある「辿る道程厳しけど 友の情けに涙して 明日に灯 ともさんと 語る仲間の声やさし」を体験できた幸せな6ヶ月でした。ありがとうございました。



これからの実践の糧として

— 所内研修を通して —

糸満市立西崎中学校教諭 堀 川 恵

この6ヶ月の研修期間は瞬く間に過ぎ去ってしまいました。研究所で学んだことは教師としてのあり方が大きかったようにおもいます。幅の広い盛りだくさんの内容でした。個人の研究かそれ以上の比重が所内研修にはあるように感じました。

私が一番良かったと思ったのは、最初の日所长が研究のあり方を話してくださったことです。理想と現実の差を埋めることが研究だとの説明は大変わかりやすく、これからやろうとしていることをつかめたような気がいたしました。所长は毎週琉球の歴史をひもといてくださり、楽しみでした。私もルーツは沖縄にありながら他県で育っていましたので、新鮮で自分の足元を見つめられたような気がします。地名についての講話も感心させられることが多く、身近な風物におおいなるロマンを感じ興味を引かれました。

また10回に及ぶコンピューター研修が大きかったように思います。長嶺小学校や、OCC、マルチメディアセンターにも出かけました。私達はワープロには慣れていましたが、パソコンは初めてという人が多くて、最初はこわしやしないかとひやひやしながら、画面に向かったのを覚えています。初心者の私達には、賀数主事より起動の仕方から丁寧に教えていただきましたが、すぐに忘れてしまったりして、その後の報告書作成は苦労の連続だったように思います。事あるたびにその世話に追われる賀数主事もたいへんだったろうと思いました。何とかパワーポイントの作成までこぎつける事ができました。

楽しいこともたくさんありました。お絵かきセットで紙芝居を作成したり、ネットミーティングでテレビ電話しながらの交信を楽しんだり、コンピューターの世界って無限の広がりをもっているんだなあと思感しました。長嶺小学校でコンピューターのソフトを使って実際に授業をやってみたのも楽しかったです。近い将来は是非こんな教材の開発もやってみたいと思いました。現場で雑務に追われながらではとてもできなかったと思います。賀数主事が見えないときは研究員が大騒動したこともありましたが、全員何がしかの自信を備え、現場に帰れると思います。

また糸満主事による講話も5回ほどあり、教育の今日的課題や教育改革の概要、文書作成やスピーチの仕方などの実際的な知識、また松下幸之助を始めとする偉人達の言葉など幅の広い教養をいただきました。糸満主事は折りに触れ私達が現場で活用できるようにたくさんの資料や新聞記事などを用意してくださいました。胸を打つエッセイなどが多く子供に語って聞かせたいと思われるものでした。三線の練習や七夕の書道も楽しい思い出です。「3人行えば必ず我が師あり。」と研究所で最初に教わった言葉でしたが、本当に日常の語らいのなかで多くのものを学んだように思います。そのような語らいの時間を糸満主事は特に大切になさっていました。

「しのめ教室」の上原先生も毎週たくさんの資料を提供してくださり、私達は適応指導教室や不登校生徒に対して少なからず知識を深めることができました。先生の講話は笑いにあふれていて、とても楽しいなかにも今日の教育に必要な人間的な生活感を養っていくことが大事だと思いました。

知花課長は行政の立場から職場としての南部広域行政組合の組織のあり方や歴史などを教えてくださいました。5年目を迎えた島尻教育研究所が16市町村の連携と負担により、成り立っていてその間に関わってくださる行政の立場のみなさんの苦勞を知ることができて大変有意義でした。そしてもっとがんばらねばと決意を新たにしました。

管内校長講話では大里南小学校の比嘉清忠先生のお話を聞くことができました。先生は校長先生の立場から理想の学校像や運営のあり方、生涯教育などについて話していただき大変これからの教育の指針となるものでした。

東風平町教育委員会の浦崎栄徳生涯学習振興課長には謝花昇の生涯について講話をして頂き、郷土の偉人の人生に感動すると同時に彼の生涯を長期間逐一調査された関係者の皆様の情熱も素晴らしいものだと思います。

これからの長い教員生活においてこの半年間は思い出す度にきっと糧となり私を励ましてくれるものになると思います。素晴らしい機会をありがとうございました。

島尻教育研究所図書室の紹介

当研究所には、これまでに購入または島尻管内の有志の方々からご寄贈いただいた図書が約2,300冊ございます。ただいま図書一覧を作成中ですが、平成10年度に購入した図書の一覧を掲載します。

シリーズ名	書名	編著者名	発行所	分類
保育の基本（全6巻）	日本産水棲昆虫検索図説	川合貞次編	東海大出版会	理科
	倉橋惣三保育へのロマン	荒井 冽著	フレーベル館	幼児教育
	幼稚園で進める環境教育	井上初代・小林研介		"
	一人ひとりを育てる(保育の中の人間関係)	小田豊 編	ひかりの国	"
	伸びる子・伸ばす親	北尾倫彦	"	"
	子供賛歌	倉橋惣三	フレーベル館	"
	育ての心(上)「	"	"	"
	育ての心(下)「	"	"	"
	倉橋惣三選集(全5巻)	"	"	"
	環境づくりと援助の方法	柴崎正行著	ひかりの国	"
	こどもの発達相談	"	フレーベル館	"
	自主性を育てる保育	立川多恵子	"	"
	保育する目を創る	"	"	"
	しつけなき子育て	辻井正	ひかりの国	"
	子育てルネッサンス	長谷光城	エイデル研究所	"
	よりよい保育の条件	日本保育学会編	フレーベル館	"
	・	森上史郎ほか	"	"
	幼稚園教育と評価	森上史郎・高杉自子ほか	ひかりの国	"
授業改革理論双書 8	3歳児の不思議な世界	山本雅乙・細倉ゆずる他	"	"
	小学校ボランティア活動事例集	宮川八岐	教育出版	特別活動・総合学習
	中学校ボランティア活動事例集	渡辺邦雄	"	"
	モラルジレンマ授業の教材開発	荒木紀幸	明治図書	道徳
新しい道徳授業作りへ提唱7	道徳性の測定と評価を生かした新道徳教育	"	"	"
	「道徳」授業における言葉と思考	宇佐美寛	"	"
	役割演技ハンドブック	江橋照雄	"	"
	こうすればできる道徳の学習	押谷由夫 監修	東洋館出版社	"
	個が生きる総合単元的な道徳学習の発展	押谷由夫・豊田市立若林小学校	"	"
	「よさ」をはぐくむ道徳の時間	押谷由夫・福岡県春日野小	"	"
	オープンエンド化による道徳授業の創造	片上宗二	明治図書	"
	リーダーシップと自己教育力	熊本大学教育学部付属中学	"	"
	総合単元的な道徳学習の実践	笹田博之	"	"
	体育科の新学力観と評価	内海和雄	大修館書店	体育
学校の共同研究	新水泳の段階的指導と安全管理	木庭修一・山川岩之助	ぎょうせい	"
	新しい学力観に立つ体育科の指導と評価事典	名古屋市体育研究会	明治図書	"
	子どもが作る総合学習2001年の扉を開く	愛知大学付属岡崎中学校	"	総合的学習
	「しらうめ活動」・「ふれあい学習」で生きる教育課程	香川大学付属高松小学校	"	"
	すぐできる中学「総合的学習」プラン集	熊本大学教育学部付属中学	"	"
	教育の流れを変える総合的学習	児島邦宏	ぎょうせい	"
	実践クロスカリキュラム	高階玲治編	図書文化社	"
	「総合的な学習」の提案	奈良女子大学付属小学校編	明治図書	"
	体験活動でつくる総合的学習	野川小学校	"	"
	中学校選択と総合的学習の新展開	水越俊行・木原俊行	"	"
総合的学習への挑戦4	小学校総合的学習の新展開	水越俊行・村上雅弘	"	"
	生活科事典	中野重人	東京書籍	生活科・事典
	生活科の支援&体験活動カード事典	"	明治図書	"
	「生活プラン」の考えと実践	井上初代・古川伸子	"	生活科
	ふだんぎの虫草あそび	奥蘭壽子	農村漁村文化協会	"
	オープンエンド化による生活科授業の創造	片上宗二	明治図書	"
	生活科の評価	中野重人	第一法規	"
	ふれあいを重視した生活科の総合的な展開	村上雅弘	明治図書	"
	作ってあそぶ	栗岡英之介	"	図画工作
	子どもの絵一見方と指導一	"	"	"
89'美術教育入門講座 6 89'美術教育入門講座 1	入門パソコン統計処理 上	管民郎	技術評論社	情報科学
	入門パソコン統計処理 下	"	"	"
	アンケート調査の方法実践ノウハウとパソコン指導	辻新六・有馬昌宏	朝倉書店	"
	手づくり遊具・道具・教材教具	全日本特殊教育研究会	日本文化科学者	障害児教育
	障害児医学ケア相談辞典 1	高松鶴吉監修	学習研究社	"
	障害児医学ケア相談辞典 2	"	"	"
	発達遅れと教育臨時増刊			

シリーズ名	書名	編著者名	発行所	分類
現代生涯学習全集（全12巻）	事例に学ぶ 学校と地域のネットワーク	岡本包治編著	ぎょうせい	生涯学習
	生涯学習の扉	今野雅裕	〃	〃
	英語授業事例事典コミュニケーション活動	森隆夫ほか	〃	〃
	を中心に（2）			
	天文学辞典	青木昭六	大修館書店	辞典
	教育法例辞典	鈴木敬信	地人書館	〃
暮らしのことわざ辞典	災害予知ことわざ辞典	銭谷真美編集	ぎょうせい	〃
〃	健康ことわざ辞典		東京堂出版	〃
〃	健康医学ことわざ辞典		〃	〃
〃	天気予知ことわざ辞典		〃	〃
〃	暮らしに生かす仏教成語辞典		〃	〃
〃	植物ことわざ辞典		〃	〃
方言辞典	全国アクセント辞典		〃	〃
〃	方言小辞典		〃	〃
自然科学辞典	環境教育辞典		〃	〃
〃	地震・火山の辞典		〃	〃
〃	地震を知る辞典		〃	〃
〃	最新気象の辞典		〃	〃
〃	海洋大辞典		〃	〃
英語辞典	日英対照感情表現辞典		〃	〃
〃	口語英語辞典		〃	〃
〃	英語反対語・対比語辞典		〃	〃
〃	英会話慣用句辞典		〃	〃
〃	類似英語使い分け辞典		〃	〃
	英語コミュニケーション能力評価事例辞典	松畑熙一（よういち）	大修館書店	〃
	英語語法活用辞典	渡辺登士	〃	辞書・英語
	広辞苑 第5版		岩波書店	辞書
	観察・実験を取り入れる数学の授業	渋谷久	明治図書	算数・数学
	地域に根ざした国際理解教育実践事例集	多田孝志・遠藤伴雄	第一法規	国際理解
	教室からの国際化	中西晃他編著	ぎょうせい	〃
	書くことの授業改革	花田修一	明治図書	〃
	法的根拠と実際的対応A～Z	菱村幸彦監修	図書文化社	教育法規
	SD方によるイメージの測定	岩下豊彦	川島書店	教育評価
	教育評価情報の活用とコンピュータ	佐藤隆博他編著	明治図書	〃
	「あたらしい荒れ」へのアプローチ	「悠」編集部編	ぎょうせい	教育相談
	マイクロカウンセリング	A アイビイ、福原真智子訳	川島書店	〃
	エンカウンターで学級が変わる	国分康孝	図書文化社	〃
	いじめは待てくれない	高橋良臣	ぎょうせい	〃
	心理テスト法入門	松原達哉編	日本文化科学社	教育心理
	教育キーワード「生きる力」の読み方	「悠」編集部編	ぎょうせい	教育課程
	「生きる力」を育てる学習指導	有園格	〃	〃
先生シリーズ17	ティームティーチングを生かす先生成功に			
	導くその考え方と実践方略の要点	加藤幸次	図書文化社	〃
学校変革実践シリーズ全8巻		河野重雄・児島邦宏	ぎょうせい	〃
	あそびの指導の手引	文部省	慶應通信	〃
新しい教育課程と学校づくり（全5巻）		山極隆・無藤隆	ぎょうせい	〃
	学校の情報公開	兼子仁・早川昌秀	〃	教育一般
	新しい学校をつくる	全国教育研究所連盟	〃	〃
	豊かな学力を育む教育の実践	〃	〃	〃
	学校はなぜ変わらないのか			
環境教育シリーズ1	子どもと環境教育	中野重人	明治図書	〃
	水環境の調査	阿部治	東海大出版会	環境教育
	個性化を図る学校づくり	新井正	古今書店	〃
	学校経営とティームティーチング実践事例集	安彦忠彦	黎明書房	学校経営
学校経営の創意と改善	開かれた学校をめざして	教職員配置改善研究会	ぎょうせい	〃
	だれもが身につけたいコンピュータの授業活用	児島邦宏	〃	〃
	アメリカのオフィス英語	全国教育研究所連盟	〃	学習指導・教育課程
		柴田智雄	大修館書店	外国語教育

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親海明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるきびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐらへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

一九九六年五月十三日